

2014.10.01.  
NO.11

# 図書館九条の会



発行・「図書館九条の会」事務局

## 第11回学習会

2014年3月2日

### 「構造改革」が図書館事業にもたらしたもの 90年代後半からの図書館に関わる政策の動向をみる

元日本図書館協会事務局長 松岡 要 氏

図書館事業は政治から遠い存在とっておりましたが、90年代後半から始まった「構造改革」政治は図書館事業に多大な困難をもたらし、政治的動向を抜きにしては進めることが出来ない状況になっています。とりわけ政府は図書館事業の条件整備義務を放棄し、図書館の管理運営、サービスに口を出すように変質したことは、政府の図書館政策の基調であり重大です。図書館運営の基本資源である職員、資料費を激減させ、結果として図書館サービスの基礎である資料の貸出しを2年連続して減少させる要因となりました。さらに指定管理者制度導入の武雄市立図書館を異常にもてはやす「武雄現象」ともいふべきものをもたらし、二重行政批判の象徴として県立図書館が挙げられている事態にもあります。

今後の運動を進めるうえで、この間の事態をみてることは意味あることではないかと考えました。主に政府筋の文書、政策を年表に載せ、テーマごとにそれを紹介しながら箇条書き的に整理して、概観してみたいと思います。文書、政策など原資料は日本図書館協会『図書館年鑑』に収録されていますので、それを参照できるようにしました。

まず本題に入る前に、この間の図書館状況をデータで見てみます。(次ページの表を参照)

この間ひどい「行革」に見舞われたのですが、図書館数は増加しています。その3割近くが、この間に新設されたのです。文部科学省が3年ごとに行っている社会教育調査でも、社会教育施設全体が減少している

なか図書館は博物館とともに増えていることをあえて述べています。図書館には根強い住民要求があることの現れです。しかし図書館設置率をみると、4分の1の市町村は未設置です。平成の大合併を終えた今日でも、いまだこのような実態なのです。

行革は職員と経費の削減を重要な柱にしていますが、図書館も例外ではなく、正規雇用の職員は27%、司書有資格者は25%、それぞれ減少しています。一方非常勤・臨時職員は2.3倍、派遣職員は、統計を取り始めた2005年から4倍です。人件費を含む図書館総経費は2割減。うち資料費は1割減です。

サービスを測る指標として重要な貸出しは、1.8倍と増加を続けています。予約件数も、ネットで検索、メールで申込みできるようになったため非常に勢いを

## 目次

- ① 第11回「構造改革」が図書館事業にもたらしたもの 講師・松岡要氏
- 09 感想文 山本真幸
- ⑭ 会員交流～北から南から～ 意見・消息等  
会員継続意向調査の理由について  
カット・まついのりこ
- ⑳ 反核と九条、そして図書館 菅原勲
- ㉓ 2013年度決算報告・2014年度予算
- ㉔ 2014年度活動報告・2015年度活動予定  
第12回図書館九条の会学習会予告